

早稲田大学 人間科学部 現代文 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	国語 90 分
特徴・その他	設問の半数以上が空欄補充問題。2より1の方が難。総合的に見ると、レベルは例年通り。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
(一)	長文読解問題 (人生における連続性と不連続性について)	設問の半数以上が空欄補充問題であり、問四がやや難。選択問題の問三は、前後の文脈のていねいな把握を要求する問題であり、わかりにくかったかもしれない。 この大問は満点を取りにくい。	やや難
(二)	長文読解問題 (言語の発生について) (出典『世界を肯定する哲学』保坂和志)	五つの設問中、四問が空欄補充問題であり、これまでの傾向からみても特殊な部類に入る。問十二は四つの文の並べ換えを問う問題であり、最近の流行になりつつある。ただ、いずれもレベル的には標準的であり、この大問は満点をとることが十分に可能。	標準

〔総合コメント〕

「総合分析」でも述べたが、今回は十二の設問中八問が空欄補充問題であり、これまでの傾向からみても、多すぎるので受験生はビックリしたことと思う。しかし、その中でレベル的にみて、難問といえるものは、ほんの少ししかないので、落ち着いて解いていけばよい。その際には、公式的なテクニック(?)に頼るのではなく、文脈をていねいに把握していくことが大切である。